



## 学術部から

学術部 部長  
櫻井 晃 洋

私が学術部を担当するようになってまだ一年にもなっていないので、今回の新企画「担当部長からの各部紹介」を書く資格が私にあるのかどうか定かではないが、私なりにこの一年足らずを振り返ってみることにする。学術部の活動内容は、学際団体としての学術活動、医師の生涯教育、次世代を担う医師の育成、社会啓発など多岐にわたり、全部は紹介できないので、そのうちのいくつかについて、私見を交えながら以下に紹介する。

### 1) 日本医師会生涯教育講座・北海道医師会認定生涯教育講座の開催

医療の進歩は年々その速度を増しており、すべての医師は常に最新の知識と技能を習得する必要があることから、さまざまな学びの機会が用意されている。その中でも日本医師会生涯教育協力講座セミナーは、日医が設定するテーマに基づいて、各都道府県医師会が協賛会社と共催で開催するものだが、その対応は都道府県医師会によってかなりの差があるようだ。北海道では道内三大学や地域中核病院と医師会との連携を重視し、三大学偏ることなく講師や演者を選任していただくようコーディネーターに依頼し、また構成案についても必要に応じて要望を加えるなど、当会としては学術講演会という位置づけでかなり積極的に関わっている。ただ、この協力講座セミナーも開始から10年を経過し、製薬会社の思惑が見え隠れしたり、セミナー運営会社の担当者が製薬会社の意向を反映するような進捗を提案したりという問題も現れ始めている。昨今は利益相反の問題に社会も厳しい目を向けるようになっており、将来に向けてセミナーのあり方を改めて考える時期に来ているのかもしれない。

### 2) 新専門医制度への対応

日本専門医機構が新たに設置され、わが国の専門医制度は大きく変わろうとしている。すでに専門医資格を取得した医師の更新要件もこれから順次具体的に示されていくが、関連学会での更新単位取得を含め、総じて研修・更新条件はこれまでより厳格になると思われる。北海道のように地理的な条件や医療人材不足のために、症例経験の確保や学会出席が

難しい地域の医師に対しては非常に厳しい条件になることも予想される。日本医師会では、専門研修プログラムに日医生涯教育制度の活用を強く働きかけた結果、専門医制度整備指針にも教育研修修了実績の中に日医生涯教育講座が明記された。当会でも、日医の対応に合わせて会員の先生方の生涯学習を支援できる生涯教育制度を推進していく予定である。また新たに作られた総合診療専門医が医療の枠組み全体にどのような影響を与えていくのか、今後注視が必要と思われる。

### 3) 研修医との懇談会

当会では平成24年度から、初期研修医、後期研修医との懇談会を実施し、これからの医療を担う若い医師たちの声を聴くとともに、医師会の活動を紹介し、入会を勧めている。また道や道厚生局との共催での交流会も開催している。私も昨年秋に初めて医師会主催の懇談会に参加し、研修医の生の声を聴くことができた。一人ひとりが自分のスキルアップやキャリアプランについて真剣に考えていることがわかり、頼もしく感じた一方で、これは昨今の若者に総じて言えることなのだが、いつまでもスプーンフィーディングを求める研修医もいる。特に今の初期研修医という立場は、医師というプロとみなされる部分と、半人前ゆえに中途半端な責任のみを負うという部分が混在しているため、ともしれば大人としての自覚が不十分なままの研修医がいるのも避けがたいのかもしれない。当会としては今後も積極的に研修医とのかかわりを続け、彼らの横のつながりをサポートしつつ、北海道の地域医療の現状と課題や医師会の活動を伝えていくことが重要と考えている。それはもちろん当会会員の増加にもつながるはずである。

### 4) 臨床研修病院合同プレゼンテーション

北海道の医師確保と定着を促進するために、道臨床研修病院等連絡協議会と連携しながら、道内外の医学生を対象に道内臨床研修病院と三大学が病院説明会を行ういわゆるレジナビに参画している。札幌以外にも東京開催や福岡開催時に参加しており、私も今年3月の福岡でのレジナビに参加してきた。私が思うにこうした説明会での勧誘から直接北海道への定着に結びつく例は少ないだろう（特に福岡開催ではなおさら）。しかしながら、学生はレジナビ全体の雰囲気をよく観察しており、それは口コミ等で学生間にすぐに広まる。北海道全体の医療が元気でやりがいがある雰囲気をアピールする、そのことだけでも意味がある。残念ながら、福岡での北海道ブースは（予想通り九州地区の学生には）あまり人気



なく閑散としている時間が多かったが、それはひとつにはブース全体の活気のなさにも原因があるように感じられた。他県のブースではユニフォームを着たり、ブースの中央に説明用のテーブルを置いたりと統一感があったし、何より参加している医療者側が楽しそうだった。こういうイベントはある種のお祭りなのだから出展する側が楽しそうでなければ客（学生）は来ない。もちろん費用対効果を無視することはできないが、決して費用と成果（訪問学生数や最終的な研修医確保数）だけでは測れない意義が

あると思う。

以上、私がこの10ヵ月で感じたことを肩肘張らない雑感として書かせていただいた。この他に将来の医師不足、地域での医師確保問題に対応するための、主に中学生を対象とした医療体験セミナーなどを道内の各地域で開催している（私はまだ参加していない）。昨今は医療ドラマなどもよく上映されるし、何よりも子どもたちにとってやはり医師は「カッコいい」職業のはずである。こうした地道な活動が将来の医療を支える土台になるものと確信している。

## お知らせ

### 平成26年度日本医師会生涯教育制度 自己申告のお願い

—北海道医師会が一括申告いたします—

#### ◇学術部◇

日本医師会生涯教育制度の申告の時期がまいりました。  
北海道医師会では、「一括申告方式」により、特別なお申し出がない限り、  
当会からお送りした受講記録にて「一括申告」いたします。

#### 1. 申告方法

平成26年度日本医師会生涯教育講座等の受講証を5月22日頃に会員各位へ発送を予定しております。

当会ではお送りした受講証のデータをもとに、「一括申告」をいたします（未受講者を除く）。

「申告をしない方」は、申告取消を5月29日までに当会事業第四課へご連絡下さい。連絡のない場合は「一括申告」をご了承いただいたものとして取り扱いいたします。

なお、道外での受講につきましても、取得単位カリキュラムコード数の対象となります。

#### 2. 申告書提出期日ならびに提出先

本受講記録以外で単位・カリキュラムコードを申告される場合は、同封の「生涯教育申告書」にて下記宛てご提出下さい。

提出期日：平成27年5月29日(金)

提出先：ご所属の郡市・医療機関医師会

#### 3. 「単位取得証」・「日医生涯教育認定証」

「単位取得証」

申告された単位・カリキュラムコードに基づき、日本医師会より、本年10月頃、単位取得証が交付されます。

「日医生涯教育認定証」

連続した3年間で、単位数・カリキュラムコード数（同一コードは加算不可）の合計数が60以上取得することにより、日医生涯教育認定証（3年間の有効期間付き）が交付されます。

※日医生涯教育認定証の認定期間3年間の間は、単位数とカリキュラムコード数の合計が60以上となっても、日医生涯教育認定証は発行しません。

照会先：北海道医師会事業第四課

TEL 011-231-1727 FAX 011-252-3233

E-mail 4ka@m.dou.jp